

(Translation of the front page
of the priority document of
Japanese Patent Application
No. 9-351711)

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

This is to certify that the annexed is a true copy of
the following application as filed with this Office.

Date of Application : December 19, 1997

Application Number : Patent Application
9-351711

Applicant(s) : CANON KABUSHIKI KAISHA

January 18, 1999

Commissioner,

Patent Office

Takeshi ISAYAMA

Certification Number 10-3106862



41172705

A.N 04/212,434

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1997年12月19日

出 願 番 号

Application Number:

平成 9年特許願第351711号

出 願 人

Applicant(s):

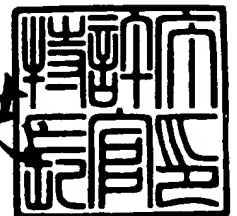
キヤノン株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1999年 1月18日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

山 建 志



出証番号 出証特平10-3106862

【書類名】 特許願

【整理番号】 3518009

【提出日】 平成 9年12月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04L 13/00

【発明の名称】 通信システム及びその制御方法、コンピュータ可読メモリ

【請求項の数】 11

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会社
社内

 【氏名】 金田 北洋

【特許出願人】

 【識別番号】 000001007

 【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100076428

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 大塚 康德

 【電話番号】 03-5276-3241

【選任した代理人】

 【識別番号】 100093908

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 松本 研一

 【電話番号】 03-5276-3241

【選任した代理人】

 【識別番号】 100101306

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 丸山 幸雄

【電話番号】 03-5276-3241

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003458

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704672

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 通信システム及びその制御方法、コンピュータ可読メモリ

【特許請求の範囲】

【請求項1】 携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムであって、

前記携帯端末は、

原稿を画像データとして読み取る読取手段と、

前記読取手段で読み取られた画像データに対し、制御信号に基づいて文字認識を行う文字認識手段と、

前記中央制御装置へ前記文字認識手段の文字認識結果を送信、あるいは該中央制御装置より前記制御信号を受信する第1通信手段と、

前記中央制御装置は、

前記制御信号を入力する入力手段と、

前記携帯端末より前記文字認識手段の文字認識結果を受信、あるいは前記入力手段より入力された制御信号を該携帯端末へ送信する第2通信手段と、

を備えることを特徴とする通信システム。

【請求項2】 前記文字認識手段は、認識用辞書を用いて前記画像データに対する認識候補文字を出力し、前記制御信号に基づいて前記認識候補文字が認識不能であるか否かを判定する判定手段を備え、

前記判定手段の判定結果に基づいて、文字認識結果を出力する

ことを特徴とする請求項1に記載の通信システム。

【請求項3】 前記判定手段は、前記制御信号と前記認識候補文字の類似度を比較することで、該認識候補文字が認識不能であるか否かを判定する

ことを特徴とする請求項2に記載の通信システム。

【請求項4】 前記判定手段による判定の結果、前記認識候補文字が認識不能である場合、前記文字認識手段は、該認識候補文字に対応する認識結果として認識不能を示す所定コードを出力する

ことを特徴とする請求項2に記載の通信システム。

【請求項5】 前記中央制御装置は、前記第2通信手段で受信した前記文字

認識手段の文字認識結果に関する情報を表示する表示手段を備え、

前記表示手段に表示される情報に基づいて、前記入力手段より所望の認識精度を得るための制御信号がユーザより入力される

ことを特徴とする請求項1に記載の通信システム。

【請求項6】 携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムの制御方法であって、

原稿を画像データとして読み取る読取工程と、

前記読取工程で読み取られた画像データに対し、制御信号に基づいて文字認識を行う文字認識工程と、

前記中央制御装置へ前記文字認識工程の文字認識結果を送信、あるいは該中央制御装置より前記制御信号を受信する第1通信工程と、

前記制御信号を入力する入力工程と、

前記携帯端末より前記文字認識工程の文字認識結果を受信、あるいは前記入力工程より入力された制御信号を該携帯端末へ送信する第2通信工程と、

を備えることを特徴とする通信システムの制御方法。

【請求項7】 前記文字認識工程は、認識用辞書を用いて前記画像データに対する認識候補文字を出力し、前記制御信号に基づいて前記認識候補文字が認識不能であるか否かを判定する判定工程を備え、

前記判定工程の判定結果に基づいて、文字認識結果を出力する

ことを特徴とする請求項6に記載の通信システムの制御方法。

【請求項8】 前記判定工程は、前記制御信号と前記認識候補文字の類似度を比較することで、該認識候補文字が認識不能であるか否かを判定する

ことを特徴とする請求項7に記載の通信システムの制御方法。

【請求項9】 前記判定工程による判定の結果、前記認識候補文字が認識不能である場合、前記文字認識工程は、該認識候補文字に対応する認識結果として認識不能を示す所定コードを出力する

ことを特徴とする請求項7に記載の通信システムの制御方法。

【請求項10】 前記中央制御装置は、前記第2通信工程で受信した前記文字認識工程の文字認識結果に関する情報を表示部に表示する表示工程を備え、

前記表示工程で前記表示部に表示される情報に基づいて、前記入力工程より所望の認識精度を得るための制御信号がユーザより入力される

ことを特徴とする請求項6に記載の通信システムの制御方法。

【請求項11】 携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムの制御のプログラムコードが格納されたコンピュータ可読メモリであって、

原稿を画像データとして読み取る読取工程のプログラムコードと、

前記読取工程で読み取られた画像データに対し、制御信号に基づいて文字認識を行う文字認識工程のプログラムコードと、

前記中央制御装置へ前記文字認識工程の文字認識結果を送信、あるいは該中央制御装置より前記制御信号を受信する第1通信工程のプログラムコードと、

前記制御信号を入力する入力工程のプログラムコードと、

前記携帯端末より前記文字認識工程の文字認識結果を受信、あるいは前記入力工程より入力された制御信号を該携帯端末へ送信する第2通信工程のプログラムコードと、

を備えることを特徴とするコンピュータ可読メモリ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システム及びその制御方法、コンピュータ可読メモリに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

一般に、文字認識装置を有する移動端末は、移動端末における文字認識結果を中央制御装置に転送し、そこで、文字認識結果の誤り訂正、検索、保存などの後処理を行う。この際、移動端末側で文字認識候補の精度が低いと判定した場合は、その文字認識候補を認識不能として所定の識別子（以下、リジェクトコードと称する）を中央制御装置へ送信し、認識不能である旨を知らせていた。

【0003】

リジェクトコードは、個々の認識候補文字の確からしさ（以下、類似度と称す

る)を算出し、それが所定の閾値より低い場合に、認識不能と判定される。従って、図3に示すように、一般にリジェクトコードが発生する度合い(以下、リジェクト率と称する)が高い場合、即ち、類似度の閾値が高い場合、相対的に認識可能と判断される文字の類似度が高くなりその正解率も高い。反対に、リジェクト率が低い場合は、認識可能と判断されてもその文字の正解率は低くなる傾向にある。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来の移動端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムでは、リジェクト率は通信システム固有のもの、即ち、類似度の閾値が固定である。そのため、例えば、個々の移動端末の文字認識状況の変化によってリジェクト率が変化してしまった場合、中央制御装置側としてはそれに対しなんら対処することができず、後処理の効率低下は免れなかった。

【0005】

本発明は上記の問題点に鑑みてなされたものであり、文字認識を行う携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムにおいて、処理効率を向上することができる通信システム及びその制御方法、コンピュータ可読メモリを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するための本発明による通信システムは以下の構成を備える。即ち、

携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムであって、

前記携帯端末は、

原稿を画像データとして読み取る読取手段と、

前記読取手段で読み取られた画像データに対し、制御信号に基づいて文字認識を行う文字認識手段と、

前記中央制御装置へ前記文字認識手段の文字認識結果を送信、あるいは該中央制御装置より前記制御信号を受信する第1通信手段と、

前記中央制御装置は、
前記制御信号を入力する入力手段と、
前記携帯端末より前記文字認識手段の文字認識結果を受信、あるいは前記入力手段より入力された制御信号を該携帯端末へ送信する第2通信手段と、
を備える。

【0007】

また、好ましくは、前記文字認識手段は、認識用辞書を用いて前記画像データに対する認識候補文字を出力し、前記制御信号に基づいて前記認識候補文字が認識不能であるか否かを判定する判定手段を備え、

前記判定手段の判定結果に基づいて、文字認識結果を出力する。

【0008】

また、好ましくは、前記判定手段は、前記制御信号と前記認識候補文字の類似度を比較することで、該認識候補文字が認識不能であるか否かを判定する。

【0009】

また、好ましくは、前記判定手段による判定の結果、前記認識候補文字が認識不能である場合、前記文字認識手段は、該認識候補文字に対応する認識結果として認識不能を示す所定コードを出力する。

【0010】

また、好ましくは、前記中央制御装置は、前記第2通信手段で受信した前記文字認識手段の文字認識結果に関する情報を表示する表示手段を備え、

前記表示手段に表示される情報に基づいて、前記入力手段より所望の認識精度を得るための制御信号がユーザより入力される。

【0011】

上記の目的を達成するための本発明による通信システムの制御方法は以下の構成を備える。即ち、

携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムの制御方法であって、
原稿を画像データとして読み取る読取工程と、
前記読取工程で読み取られた画像データに対し、制御信号に基づいて文字認識を行う文字認識工程と、

前記中央制御装置へ前記文字認識工程の文字認識結果を送信、あるいは該中央制御装置より前記制御信号を受信する第1通信工程と、

前記制御信号を入力する入力工程と、

前記携帯端末より前記文字認識工程の文字認識結果を受信、あるいは前記入力工程より入力された制御信号を該携帯端末へ送信する第2通信工程と、

を備える。

【0012】

上記の目的を達成するための本発明によるコンピュータ可読メモリは以下の構成を備える。即ち、

携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムの制御のプログラムコードが格納されたコンピュータ可読メモリであって、

原稿を画像データとして読み取る読取工程のプログラムコードと、

前記読取工程で読み取られた画像データに対し、制御信号に基づいて文字認識を行う文字認識工程のプログラムコードと、

前記中央制御装置へ前記文字認識工程の文字認識結果を送信、あるいは該中央制御装置より前記制御信号を受信する第1通信工程のプログラムコードと、

前記制御信号を入力する入力工程のプログラムコードと、

前記携帯端末より前記文字認識工程の文字認識結果を受信、あるいは前記入力工程より入力された制御信号を該携帯端末へ送信する第2通信工程のプログラムコードと、

を備える。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下、図面を参照して本発明の好適な実施形態を詳細に説明する。

【0014】

図1は本発明の実施形態の通信システムの構成を示す図である。

【0015】

図1に示すように、通信システムは移動端末100と中央制御装置200から構成される。また、移動端末100と中央制御装置200は無線ネットワーク3

00を通して結ばれている。尚、ここでは、1台の移動端末100と中央制御装置200で構成されているが、移動端末100を複数構成した場合にも、本発明は適用される。そして、複数の移動端末100の各移動端末が中央制御装置200と通信を行う場合には、各移動端末を識別できるように、例えば、互いに異なる識別信号を中央制御装置200に発行してから通信を開始することで、中央制御装置200は各移動端末を識別することができる。

【0016】

移動端末100において、102は読取原稿である。104は読取原稿102を読み取り、画像信号を生成するスキャナである。106はスキャナ104で生成された画像信号の文字認識を認識用辞書106aを用いて行う文字認識部である。106bは文字認識部106が出力する文字認識候補文字が認識不能であるか否かを認識不能判定用閾値に基づいて判定する認識不能判定部である。108は文字認識部106による文字認識結果を中央制御装置200へ送信する文字認識結果送信部である。110は認識不能判定用閾値を中央制御装置200より受信する閾値受信部である。

【0017】

中央制御装置200において、202は文字認識結果を移動端末100より受信する文字認識結果受信部である。204は文字認識結果受信部202で受信した文字認識結果の後処理を行う文字認識結果後処理部である。204aは、文字認識結果後処理部204による処理結果等のデータを保存する保存部である。206は文字認識結果後処理部204による処理結果を表示する表示部である。208は認識不能判定用閾値を入力する閾値入力部である。210は閾値入力部208より入力された認識不能判定用閾値を移動端末100へ送信する閾値送信部である。

【0018】

尚、移動端末100、中央制御装置200には、それぞれ不図示のCPU、RAM、ROMが搭載されており、各端末に搭載されるCPUは、ROMに記憶されている装置を制御するための各種プログラムをRAMに展開して実行する。また、RAMはデータの作業領域、一時退避領域としても機能する。

【0019】

次に、本実施形態の通信システムの動作について、図1を用いて説明する。

【0020】

移動端末100側で準備された読取原稿102は、スキャナ104にて読取原稿102に対応する画像信号を生成する。生成した画像信号は文字認識部106に送られ、文字認識を行う。閾値受信部110は、無線ネットワーク300を介して、中央制御装置200の閾値入力部208において入力された認識不能判定用閾値を受信する。ここで、文字認識部106では、閾値受信部110が受信した認識不能判定用閾値と各認識候補文字の類似度を比較する。比較の結果、認識不能判定用閾値よりも認識候補文字の類似度が大きい場合は、その認識候補文字に対応する文字コードを認識結果として出力する。一方、認識不能判定用閾値より認識候補文字の類似度小さい場合は、認識不能として所定のリジェクトコードを出力する。尚、文字認識部106で実行される処理の詳細については、後述する。認識結果送信部108は、文字認識部106による文字認識結果である文字コード及び認識不能を示すリジェクトコードを、中央制御装置200に無線ネットワーク300を介して送信する。

【0021】

一方、中央制御装置200では、まず、移動端末100から送信された文字認識結果を文字認識結果受信部202において受信する。受信した文字認識結果は、文字認識結果後処理部204で訂正、保存部204aの保存、文字認識結果をキーにした保存部204aに保存されているデータの検索等の処理を行い、その処理結果を表示部206に表示する。閾値入力部208では、操作者が文字認識結果後処理部204で処理された処理結果を元に、最適な認識不能判定用閾値を決定し入力する。尚、閾値入力部208で実行される処理の詳細については、後述する。閾値入力部208より入力した認識不能判定用閾値は閾値送信部210により移動端末100へ無線ネットワーク300を介して送信する。

【0022】

次に、本発明で実行される処理について、図2を用いて説明する。尚、ここでは、特に、本発明の主眼となる文字認識部106及び閾値入力部208で実行さ

れる処理の詳細について説明する。

【0023】

図2は本発明の実施形態で実行される処理を示すフローチャートである。

【0024】

まず、ステップS300で、移動端末100内の文字認識部106は、スキャナ104から入力された画像信号から文字を切り出す文字抽出を行う。ステップS302で、ステップS300で切り出された文字画像信号から所定の特徴抽出を行う。ステップS304で、認識対象文字画像信号と認識用辞書106a内の学習文字との類似度をステップS302で抽出された特徴を元に算出する。ステップS306で、認識候補文字をその類似度の大きい方から所定の数（認識候補文字数）だけ選択し、ソーティングする。また、この候補文字数は、認識候補文字数レジスタ（不図示）にセットされる。

【0025】

ステップS308で、認識不能判定部106bによって、認識候補文字の第1候補、即ち、類似度が最も大きい認識候補文字の類似度と認識不能判定用閾値を比較する。第1候補の類似度が認識不能判定用閾値より小さい場合（ステップS308でNO）、ステップS310に進み、認識対象文字を認識不能として、所定の識別子、即ち、リジェクトコードを出力する。一方、第1候補の類似度が認識不能判定用閾値より大きい場合（ステップS308でYES）、最低1個の文字認識結果は出力できるので、認識成功として、ステップS312に進む。

【0026】

ステップS312で、認識候補文字の処理数をカウントする認識候補文字数カウンタi（不図示）に2を代入する。ステップS314で、認識候補文字数カウンタiの内容が、認識候補文字数レジスタにセットされた認識候補文字数を越えたか否かを判定する。認識候補文字数カウンタの内容が認識候補文字数を越えている場合（ステップS314でYES）、それ以上の認識候補文字はないので以後の処理を中止し、ステップS316に進む。そして、ステップS316で、類似度が認識不能判定用閾値を超えている認識候補文字に対応する文字コードをすべて出力する。一方、認識候補文字数カウンタiの内容が候補文字数を越えてい

ない場合（ステップS314でNO）、ステップS318へ進む。

【0027】

ステップS318で、第*i*候補の類似度と認識不能判定用閾値を比較する。第*i*候補の類似度が認識不能判定用閾値より小さい場合（ステップS318でNO）、第*i*候補以降の候補文字は認識不能として、ステップS316に進む。一方、第*i*候補の類似度が認識不能判定用閾値より大きい場合（ステップS318でYES）、ステップS320に進み、認識候補文字数カウンタ*i*をインクリメントし、ステップS314に戻る。

【0028】

尚、認識候補文字数レジスタ、認識候補文字数カウンタは、それぞれ中央制御装置200において、例えば、装置に搭載されているRAM上で実現されたり、専用のハードウェアで構成することで実現される。

【0029】

以上の処理によって、判定されたリジェクト率は図3に示すような傾向を持つ。即ち、リジェクト率が高い場合は、認識可能と判断された文字の正解率は向上するが、その絶対数は少ない。逆に、リジェクト率が低い場合は、認識可能と判断される文字数は多いが、文字の正解率も低下する。そこで、本発明では、最適なリジェクト率で移動端末100上での文字認識が実行されるように、移動端末100の認識不能判定部106bの判定状況に応じて、認識不能判定用閾値を中央制御装置200の閾値入力部202より変更する。

【0030】

具体的には、文字認識部中央制御装置200の閾値入力部208より、移動端末100の認識不能判定部106bの認識不能判定用閾値を変更する。

【0031】

つまり、中央制御装置200側の操作者が、表示部206に表示される文字認識結果後処理部204による処理結果を確認しながら、例えば、ある移動端末100の読取原稿一枚あたりの認識不能文字数が極端に多いと判断した場合は、移動端末100から送信される文字認識結果の精度がきつい、あるいは文字認識精度を少し緩和する必要があると判断し、閾値入力部208で現在の認識不能判定

用閾値よりも低い認識不能判定用閾値を入力する。そして、閾値送信部210で該当する移動端末100にその認識不能判定用閾値を送信し、正常な認識結果をより多く受信できるよう制御する。一方、読取原稿一枚あたりの認識不能文字数が少ないと判断した場合は、移動端末100から送信される文字認識結果の精度が悪化している、あるいは文字認識精度を更に向上させる余地があると判断し、閾値入力部208で現在の認識不能判定用閾値よりも高い認識不能判定用閾値を入力する。そして、閾値送信部210で該当する端末100にその認識不能判定用閾値を送信する。

【0032】

以上説明したように、本実施形態によれば、中央制御装置200において操作者が個々の移動端末の文字認識状況を判断し、移動端末100の認識不能判定部106bにおける判定に用いる認識不能判定用閾値を制御することにより、常に所望の精度の文字認識結果を得ることができる。特に、移動端末100側の認識状況が時々刻々と変化するような場合には、移動端末100の文字認識処理の効率化に大きく貢献することができる。

【0033】

上記実施形態では、移動端末100の文字認識部106が出力する認識候補文字数を複数としたが、これに限定されない。例えば、類似度が最も大きい認識候補文字を唯一の認識候補文字とし、それに対し認識不能判定部106bによる判定を行ってもよい。この場合、処理の高速化を図ることができる。

【0034】

上記実施形態では、無線ネットワーク300により結ばれた移動端末100、中央制御装置200から構成される通信システムを例に挙げて説明したが、これに限定されるものではない。例えば、有線ネットワークで結ばれた端末、中央制御装置で構成される通信システムでも何ら問題ない。

【0035】

尚、本発明は、複数の機器（例えばホストコンピュータ、インタフェース機器、リーダ、プリンタなど）から構成されるシステムに適用しても、一つの機器からなる装置（例えば、複写機、ファクシミリ装置など）に適用してもよい。

【0036】

また、本発明の目的は、前述した実施形態の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶媒体を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても、達成されることは言うまでもない。

【0037】

この場合、記憶媒体から読出されたプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

【0038】

プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROMなどを用いることができる。

【0039】

また、コンピュータが読出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているOS（オペレーティングシステム）などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0040】

更に、記憶媒体から読出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0041】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、文字認識を行う携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムにおいて、処理効率を向上することができる通信システム及びその制御方法、コンピュータ可読メモリを提供できる。

【0042】

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施形態の通信システムの構成を示す図である。

【図2】

本発明の実施形態で実行される処理を示すフローチャートである。

【図3】

リジェクト率と認識文字精度の関係を示す図である。

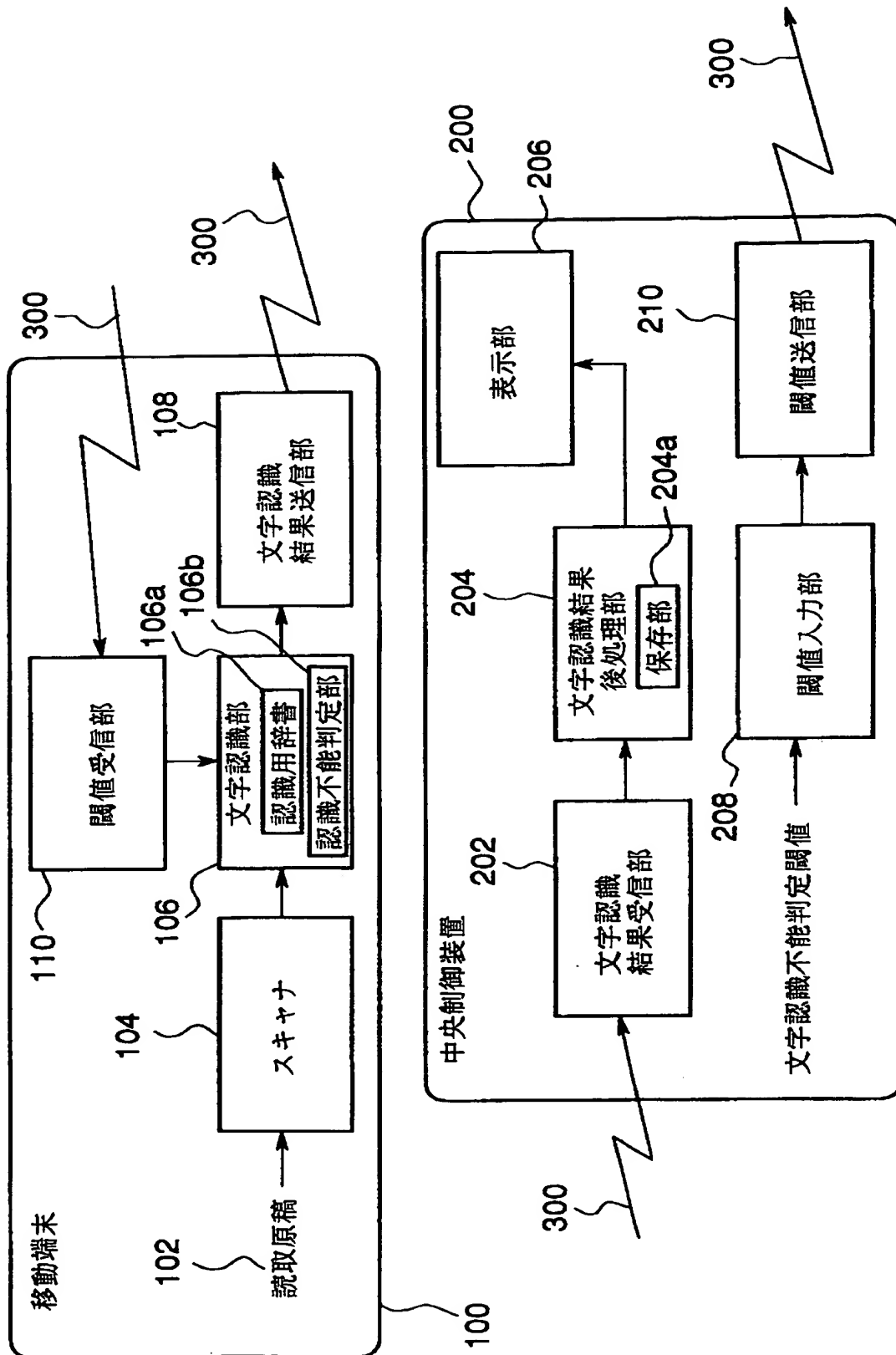
【符号の説明】

- 100 移動端末
- 200 中央制御装置
- 300 無線ネットワーク
- 104 スキャナ
- 106 文字認識部
 - 106a 認識用辞書
 - 106b 認識不能判定部
- 108 文字認識結果送信部
- 110 閾値受信部
- 202 文字認識結果受信部
- 204 文字認識結果後処理部
 - 204a 保存部
- 206 表示部
- 208 閾値入力部
- 210 閾値送信部

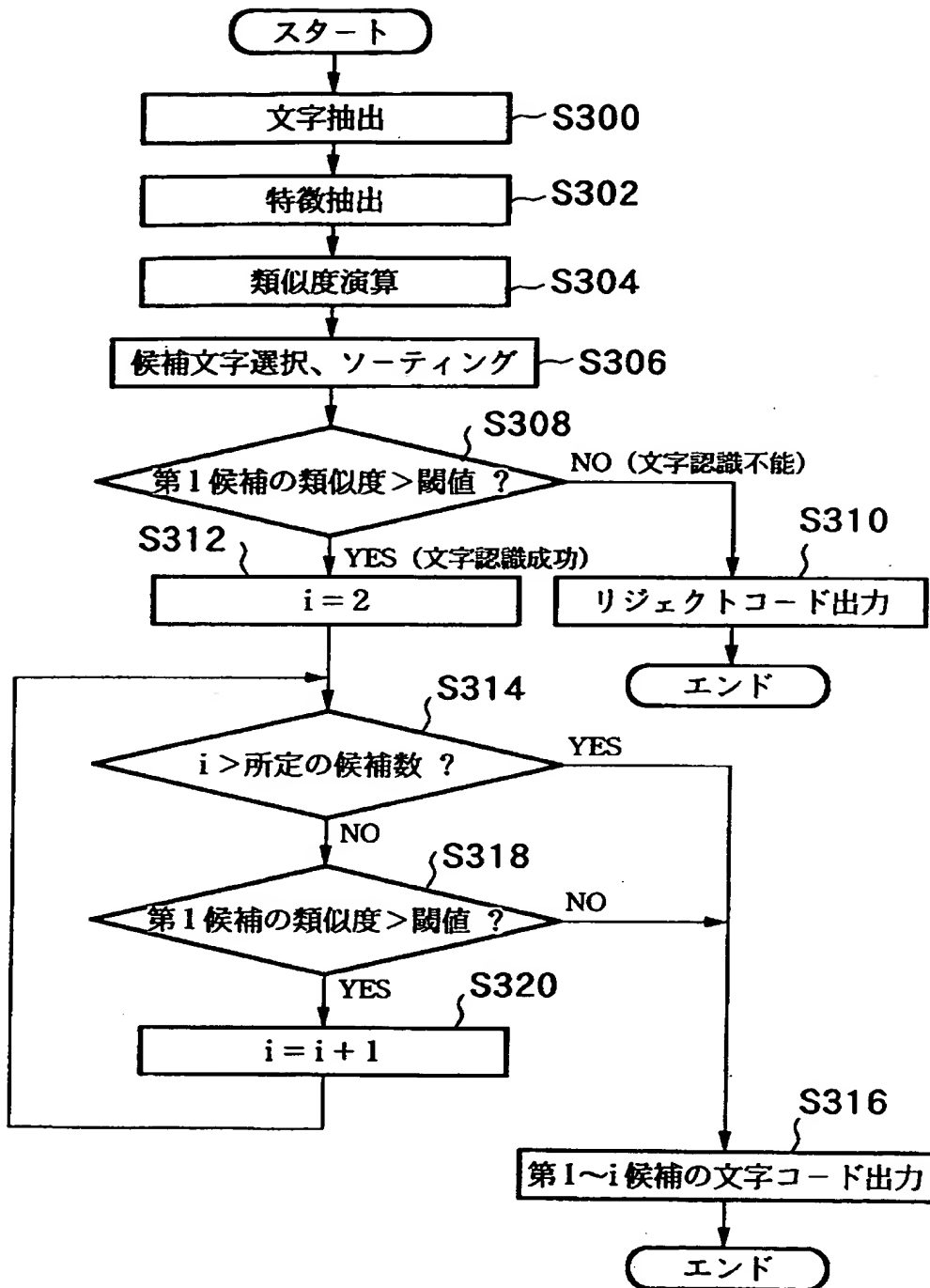
● 特平 9-351711

【書類名】 図面

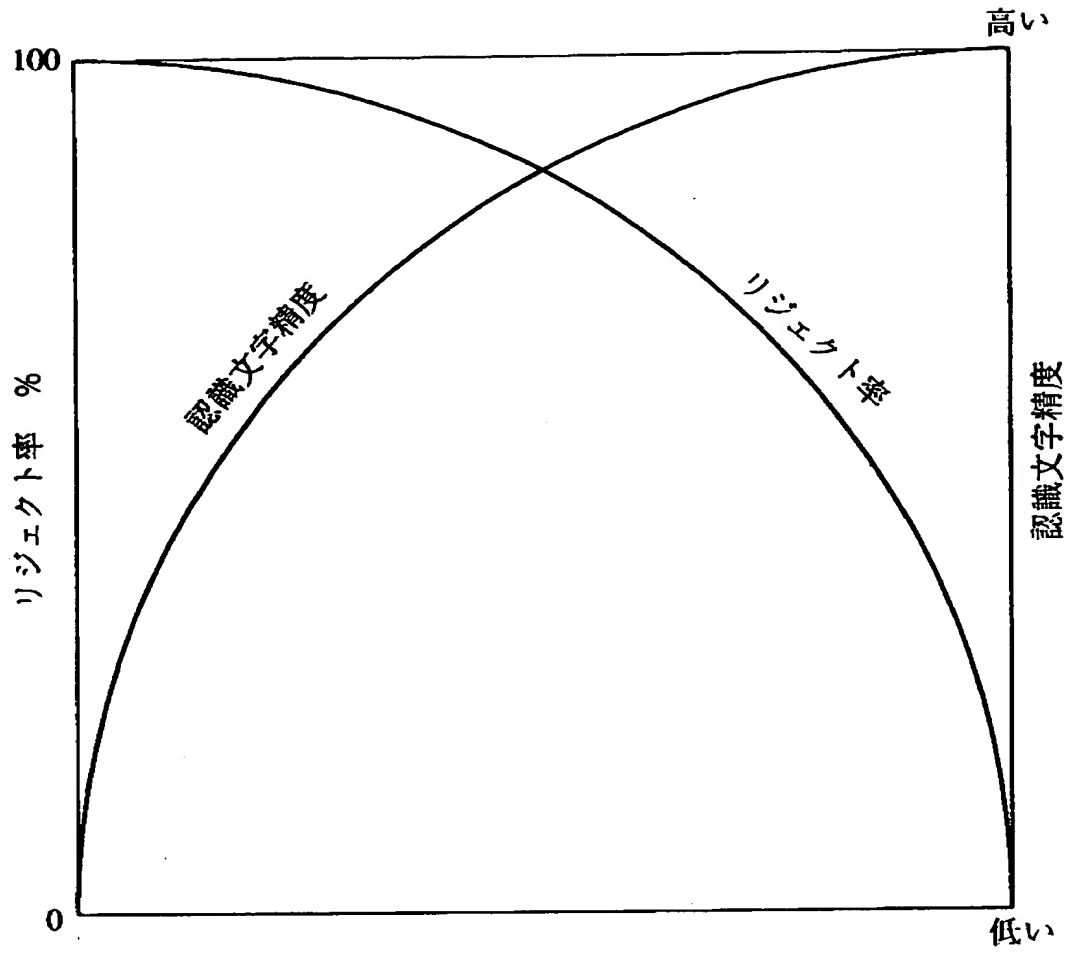
【図1】



【図2】



【図3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 文字認識を行う携帯端末と中央制御装置間で通信を行う通信システムにおいて、処理効率を向上することができる通信システム及びその制御方法、コンピュータ可読メモリを提供する。

【解決手段】 移動端末100は、原稿を画像データとしてスキャナ104で読み取る。読み取られた画像データに対し、制御信号に基づいて文字認識を文字認識部106で行う。中央制御装置200へ文字認識結果を文字認識結果送信部108より送信する。あるいは中央制御装置200より制御信号を閾値受信部110より受信する。一方、中央制御装置は、移動端末100より文字認識結果を文字認識受信部202より受信する。あるいは閾値入力部208より入力された制御信号を携帯端末へ閾値送信部210より送信する。

【選択図】 図1

【書類名】 職権訂正データ
【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代理人】 申請人

【識別番号】 100076428

【住所又は居所】 東京都千代田区麹町5丁目7番地 紀尾井町TBR
ビル507号室

【氏名又は名称】 大塚 康德

【選任した代理人】

【識別番号】 100093908

【住所又は居所】 東京都千代田区麹町5丁目7番地 紀尾井町TBR
ビル507号室

【氏名又は名称】 松本 研一

【選任した代理人】

【識別番号】 100101306

【住所又は居所】 東京都千代田区麹町5丁目7番地 紀尾井町TBR
ビル507号室

【氏名又は名称】 丸山 幸雄

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名 キヤノン株式会社